△ここに人あり▽

若い調教師

★熊本市動物園勤務
北村　司　さん

<ミー子とともに―園内をランデブーする北村さん>

北村司さん（二二）。水辺動物園の人気者であるチンパンジー、ミー子（四歳）の調教を手がけている。

動物園に勤めたのは三年前から。ミー子が北村さんを見ると笑顔を浮べるようになった。「子どもの頃、親からこっぴどく叱られながらも捨て犬や猫を拾ってきては、こっそり飼っていた。」という根っから動物好きの北村さんを、動物特有の鋭い嗅覚でキャッチしたのだろう。

泊り込みの〝対話〟

チンパンジー飼育歴十四年というベテランの竹田園長の指示で、鹿児島の鴨池動物園で一カ月にわたる調教見習いの後、二年前から、本格的にミー子の調教に取り組んだ。

動物はみんな寂しがり屋だという。だから、早く仲良くなるために、北村さんは、まる二カ月間というもの、夜もミー子の檻（おり）の中に泊り込んだ。家に帰るのは、弁当を取りに帰る時だけという徹底した対話である。

「やはりこわかったですネ。初めはほとんど寝付けませんでした。そっと目をあけると、ジーッと私をのぞき込んでいるんですョ。昼間も、毎日のように噛まれました。しかし、こわがっていることを見抜かれたら、言うことを聞かなくなりますからネ」。

ある晩、北村さんが毛布にくるまって寝ていたら毛布がガサガサ動く。寝呆けまなこで飛び起きたら、ミー子が横にもぐり込んで寝ていたという。「いや、ビックリするやら、嬉しいやら……。」

〝スター誕生〟のかげに

これからの調教がまた大変。自転車に腰を掛けるように教え込むだけでも、手どり足どりで、十日以上はかかる。同じ動作を何百ぺんと繰り返す調教。チンパンジーと人間の根くらべである。

「叱る時は徹底的に叱る。そのかわり、遊ぶ時も徹底的に遊んでやるんですよ。」子どもをしつける母親、というより、ことばが通じないだけに、それ以上の根気と愛情が要求されるのである。そして、スター誕生。

ミー子は、いま、オジギはもちろん、ナイフとフォークを器用に使っての食事マナーなどで愛きょうを振りまいて、水辺動物園の〝主演女優〟の貫録をみせている。

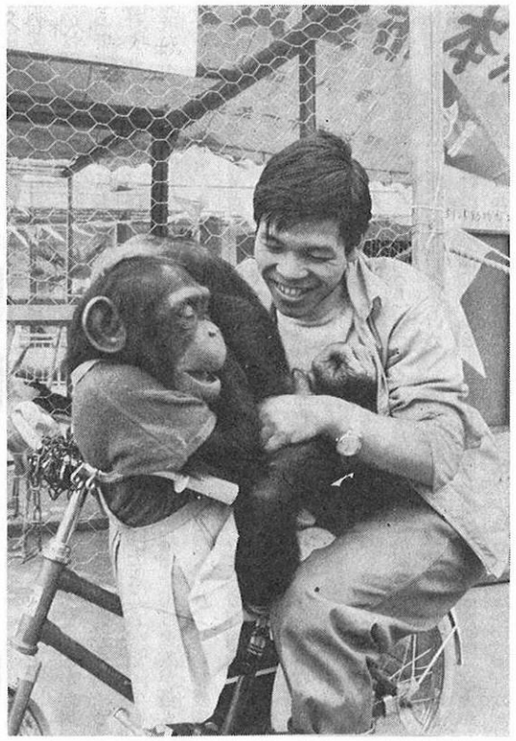
最愛のガールフレンド

「病気がいちばんこわいですネ。私がカゼをひいたら彼女に移りますし、彼女がカゼにかかったら私に移るんですよ。病気の時は徹夜の看病です。」話に熱が入ってくると、ミー子のことを、つい〝彼女〟と表現してしまう北村さんである。

「私が彼女の前で女のお客さんと話すと、歯をむいて怒るんですよ。ヤキモチをやくんでしょうかネ。」と、ミー子とふざけながら北村さんは笑う。

これからは、オランウータンやゴリラの調教を、そして将来は、チンパンジーを五頭ぐらい並べて、グループサウンズばりのショーもやってみたいと眼を輝やかせる。

北村さんを慕って檻の中を駆け回りながら大声でわめくミー子をみながら、北村さんは明るい声でポツンといった。「ミー子は最愛のガール・フレンドですよ。」


<手とり足とり……だが、結構楽しいひとときだ>

南国の味と香り

■ 熊本プリンスメロン 大いに売出す

本年度の熊本プリンスメロンは、面積、生産量とも昨年度の約50％増と、めざましい躍進ぶり。

県内で800ヘクタール、1万6,000トンが生産され、作付面積は、先進地の愛知県、千葉県を抜いて全国1位。主産地は鹿本町、山鹿市、熊本市、天明村など。

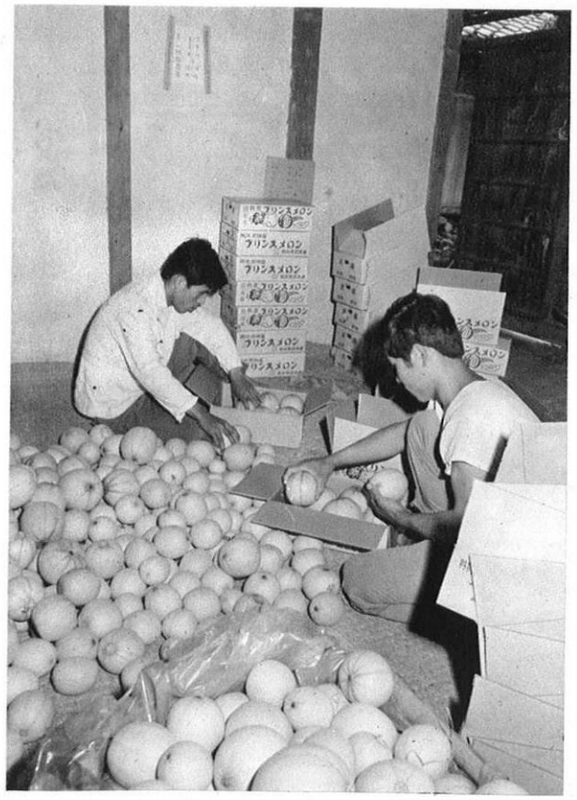
その名のとおり、メロンのプリンスにふさわしい甘い味と芳香が、県外でも好評を呼び、京浜、京阪神、福岡を主に、遠くは北陸、北海道まで出荷されている。

とくに、5、6月の早出し栽培が成功して、昨年度のこの2ヵ月間の平均市場占有率は東京市場で約43％、大阪市場で約63％と、ともに第1位。

ことしも、東京市場へ3,900トン、大阪市場へ4,300トンが出荷されているが、市場占有率も昨年度を上回る勢いをみせている。

輸送はほとんどトラック輸送。本年度からは、少しでも鮮度の高いものを届けようと、東京と産地をつないだ低温輸送車（トラック）によるコールドチェーンも実験的に試みられている。

上・早出しのためのハウス栽培は、路地植えにくらべてかなり早い。


上・メロンの選別箱づめ作業は各農家で…農協ではそれらを集めて、出荷は一元出荷体制でコンスタントに。

上・中央市場で信頼される品を維持するためには、品質・規格の検査もきびしい。活躍する農場の検査員。

上・より新鮮なメロン…農協ではコールド・チェーンの試験輸送を試みているが、調子はいいようだ。